

刊 夕 日八十二月十 行發日八十二月十

或る日の澤村勝爲

日は七ツ下りの頃である。
ではあるが永い夏の日、
かもし赤茶色に染つて只
まだ、高い。暑い日、

愚庵遺稿

（禁脚載） 島田忠夫 録
○都子鳥
○旅中難
○又
○雨中子規

幾日か、幾十日か、雨の
ない道路は灰の様にわかき
切つて、駒の蹄の音毎に
影しく砂はこぼり舞ひ上る
のである。

枯華微笑
大据え置きは不
合理だつた
乗車人員で市制
釣振落しの秋の
日家を暴落
産業博覧会に若く
地所はさがる買
利鞘が細くて納

一日一禪
楚客莫言山勢險
世人心更險於山
講談
其處へソツソ入つて來
たのは虎の五郎...

艶女長兵衛
東京新波南史
（魚崎潮書）
（五）
其處へソツソ入つて來
たのは虎の五郎...



これは根岸御行の松の長兵衛
と云ふ若い野郎を叩つ切るや
七人無くもや留見いへ
んだ、お前のところへ来た
んで来て丸八の娘を取返さ
つた、彼の若い野郎を来外
へ走つて終つて今日ち
よ、助、あつ然うかね、私
やア味方になるものがね
はあの時はソツベリこそし
のた、漸く三人だけ見付
てゐるが、何詰まらねへ
野郎がまだ足りねへ、丹波
郎だと思つたんで、踏屋
頼むから暇り込みの時
返さねへか、お三、お三、
返さねへか、お三、お三、
返さねへか、お三、お三、
返さねへか、お三、お三、

無効返金薬 (二日以内返金)
岩里天然堂
特約店 渡邊いと

カキ貝 御料理 傳賣出し
カキフライ 金廿五錢
カキライス 金四十錢
カキなべ 金四十錢

吉田眼科病院
平町紺屋町
江戶前 更科そば
藤 藤

新築落成御披露
益子屋食堂
藤市蒲鉾店

度量衡計量器
吸入用酸素
関内藥局

甘黨陣屋開業
泉屋支店
生花教授
須藤

